

目 次

P1	新任のあいさつ	支 部 長	小黒 幸市
P1	公益社団法人 日本技術士会栃木県支部 平成27年度年次大会	支 部 幹 事	稲葉 茂
P2	講演会『栃木県工業振興課における技術振興施策について』	支 部 幹 事	篠原 正美
P3	報告会『私の合格体験記』・『福島第二原子力発電見学会の感想』	支 部 幹 事	川上 寛児
P4	平成27年度新合格者歓迎会・懇親会報告	支 部 幹 事	黒川 昌司
P4	馬頭中学校跡地を利用したバイオマス発電所見学会	支 部 幹 事	久芳 良則
P5	市貝プロジェクト「サシバをたずねて」の報告	支 部 幹 事	久芳 良則
P7	国立研究開発法人 産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所 (FREIA) 見学報告	支 部 幹 事	久芳 良則
P8	フェスタ my 宇都宮 2015 「わくわくどきどきサイエンス」	支 部 幹 事	西谷 元則
P9	栃木県支部広場		
	まちびあ利用者協議会 全体会議 報告	支 部 広 報 委 員 会	西谷 元則
	コラム 真岡市の「専修寺 御影堂」	支 部 広 報 委 員 会	大岩 正通
	新体制	支 部 総 務 委 員 会	黒須 重富
P10	平成27年度 行事予定表	支 部 広 報 委 員 会	
P11	小学生を対象にした理科教室ボランティアスタッフ募集	支 部 環 境 小 委 員 会	
P12	協賛団体の紹介 「株式会社 イケアフォーミュラ」		

新任あいさつ

支部長 小黒 幸市



7月3日の本部理事会で下名が栃木県支部長に選任されました。支部会員皆様のご支援を得ながら、誠心誠意努めたいと思っております。新幹事15名と共によろしくお願い申し上げます。栃木県技術士会を経て、公益社団法人日本技術士会栃木県支部は発足してから4年が経過いたしました。菅井前支部長を始め幹部および会員の皆様のご努力により、漸く支部の形が出来つつあるところです。本部との協議ならびに関東8県支部と連携しながら、更に栃木らしい県支部を作るよう努力したいと思います。

本年度の基本方針は前執行部の下、立案された「栃木県支部平成27年度活動方針」に沿い、遂行いたします。

① “会員の顔の見える会” をモットーに、会員の交流・資質の向上を図る。CPD講座・見学会・会員同士の業務経験情報交換等、研修会を充実させる。

② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋” を目指し、産官学の繋がりが図ってきたが、更なる展開と共に地域をより意識した貢献活動を展開する。今年、市貝プロジェクトを創設したが、市貝町にお役に立つ支援を行うことにより、地域との架け橋のモデルとしたい。

③ 会員の拡大による支部の強化と、業務の拡大を図り技術士の知名度と委託された業務の質の向上を図る。

④ 来年度の「第46回日韓技術士国際会議」は日光市を会場として開催される。統括本部日韓技術士交流委員会の企画運営の下、当支部が運営協力を行ない、準備を進めるための運営委員会を発足させた。今後、他県支部での開催のモデルに成りうるよう支部所属会員の総力を挙げて成功に導きたい。また、中国浙江省との交流は更に深化させることにより、具体的な成果に結び付けたい。

今後、更に開かれた栃木県支部を会員皆様と共に作り上げて行きたいと願っています。

公益社団法人 日本技術士会
栃木県支部 平成27年度年次大会報告

支部幹事 稲葉 茂

1. はじめに

平成27年6月6日日本技術士会栃木県支部の年次大会がホテル丸治(宇都宮市)で開催された。公益社団法人日本技術士会栃木県支部は発足後3年を経過し、今回は栃木県支部としては第4回目の年次大会にあたる。

年次大会には38名の技術士が出席し、その後の講演会、報告会、新合格者歓迎会、懇親会には新合格者、協賛団体を含めて例年より10名程度多く、約50名が参加した。

2. 議事次第

司会の福田総務副委員長の開会宣言で始まり、以下の内容で議事進行した。

1) 支部長挨拶 (6月6日現在)

菅井支部長より26年度は所属会員・準会員・協賛団体名簿を整理し、きめ細かい確実な連絡方法の確立、栃木県支部規則の検討を行った。

「地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋に」をテーマに活動してきたが、少しずつ浸透してきた。また、栃木支部会員数の増加についてH24-H27増減で正会員16名準会員2名の増があり関東甲信越地域では1番の伸び率であったことが報告された。さらに、新たに4社の協賛団体が増え計23社になったことが報告された。

また、今年度も引き続き支部の基本方針に基づき多くの仲間が集う会を目指して継続的な努力をしたい。さらに、中国浙江省とは引き続き交流を深め、具体的な成果に結び付けたいと挨拶した。



菅井支部長

なお、挨拶では「27年度新体制の説明」、「新たに5名の幹事が選任」、「市貝プロジェクト」、「理科学研究会」、「日韓技術士国際会議運営委員会に設置」などがあつた。新支部長は7月に開催予定の本部理事会承認後正式就任となること報告された。

2) 報告事項

①平成26年度事業報告

柳瀬副支部長より平成26年度事業概要の報

告があつた。

②平成26年度各委員会の事業実績と平成27年度事業計画

総務委員会福田、企画・研修委員会宮下、業務委員会柳瀬、広報委員会西谷、国際委員会福田、地域企業支援小委員会梁島、地域支援小委員会稲葉、環境支援小委員会久芳の各委員長から、それぞれの委員会活動について平成26年度実績と平成27年度計画の説明があつた。

③栃木県支部収支予算の平成26年度実績と平成27年度予算

新井幹事より栃木県支部の平成26年度実績の報告と平成27年度予算の説明があつた。

3. おわりに

出席者各位の協力により、司会者の閉会宣言で時間通り無事終了した。



年次大会の様子

講演会報告

「栃木県工業振興課における

技術振興施策について」

支部幹事 篠原 正美



講師：諏訪 勝也 氏

(産業労働観光部工業振興課

ものづくり企業支援室 副主幹)

1.はじめに

年次大会の講演会は、ものづくり企業支援室

の諏訪勝也副主幹をお招きし、中小企業支援に関する県の支援体制、中小企業の現況、各種施策、補助金、技術支援などについてご講演いただいた。施策遂行には、協力組織の支援が必要であるとのことで、技術士支部の協力を要請された。

2.講演の概要

(1) 県の支援体制について

ものづくり中小企業支援は、工業振興課のモノづくり支援室と産業技術センター（4センター）で行っている。国からの支援金確保、栃木県重点振興産業（5業種）、フードバレー栃木等の支援は、ものづくり工業支援室の重要業務であり、協議会を主体に進められている。

(2) 県内中小企業の現況

栃木県内名目総生産額は、7.8兆円余で全国16位となっている。産業別シェアは、製造業31.0%、サービス業18.9%、不動産業12.6%で製造業が突出している。製造業の全国シェアは、18.3%（1位）であるが栃木県は、非常に高いシェアを占めている。更に、製造業の総生産額2.4兆円（全国6位）に占める比率は、食料品が29.3%、輸送用機械13.2%、電気機械9.0%であり食料品が高シェアとなっている。

(3) 支援施策と補助金

工業振興課が行っている、施策と支援や補助金について、以下の説明が行われた。

① 施策

- ・新技術、新商品の研究開発支援
- ・人材の育成、確保支援
- ・交流、連携を通じたネットワーク形成支援
- ・展示商談会などによる販路開拓支援
- ・下請け企業、地場産業支援

下請け企業にあっては、自社商品開発に対し支援する。

② 補助金について

・ものづくり技術強化補助金

研究開発に要する原料、設備、人件費、知的財産経費などに対し補助金100万円～1,000万円支給される。募集は5月頃行われる。

・ものづくり、商業、サービス革新補助金

サービスやものづくり新事業創出の設備投資、試作品開発などに支援される。

革新的サービス、ものづくり技術に対しては上限1,000万円。

共同設備投資に対しては、上限5,000万円

が給付される。募集は、2月頃から行われ、平成26年度は、県内企業286件が採択され、全国18位であった。

・サポイン事業補助金

正式には「革新的なものづくり産業創出連携促進事業」というが、中小企業が、大学、公設研究機関などを行なう開発に対する支援で支援期間は最長3年、補助金は、初年度上限4,500万円で3年間受けることができる。

(4) 技術支援

技術支援は、産業技術センターが地域産業の中核的技術支援機関として中小企業支援を行っている。その主な業務は、次のとおりである。

- ①施設、機器の開放
- ②試験依頼
- ③技術相談
- ④研究開発
- ⑤交流、連携
- ⑥技術情報提供
- ⑦人材育成、及び、繊維、織物、窯業指導等

3.終わりに

県のモノづくり支援は、毎年度行われているが、事業決定が例年2月、3月頃であり応募には準備期間が必要である。中小モノづくり企業の応募に関し栃木県支部にできる役割があることを認識した講演会であった。

平成27年度 報告会

報告会『私の合格体験記』・

『福島第二原子力発電見学会の感想』

支部幹事 川上 寛児

『私の合格体験記』、大岩建設 岩見武（建設）
地方建設業は実業過程高校卒社員が多く、・読み・書き・聞く・話すことが苦手で、自らレベルアップしようとする意欲も低かった。そこで、業務に関連する諸資格を取得して刺激を与えること目指した。現在は資格を取得にチャレンジする社員も増え、業務関連資格の取得数が一人平均2.4件に達した。従来より高度な工事の受注が増加するなど効果が上がり始めている。



岩見 武 講師

『福島第二原子力発電見学会の感想』

上岡修一（上下水道）

建設コンサルティング会社に勤務し、技術士の資格を活用しているが業務に範囲が限られるため、視野の拡大の必要性を感じていた。今回の見学会は専門と無関係であるが良いチャンスと考え参加した。東日本震災の被害状況、特に津波影響の大きさに強い印象を感じた。

原子力発電所は一般人が入れない場所に入ることができ、また、東電社員の丁寧な案内を受けたことで栃木県支部の重みを感じることができた。

今後の廃炉作業の進め方やエネルギー問題など、専門外ながら深く考えるきっかけを得られたことは貴重な機会だった。このような会により多くの会員が参加するように希望する。



上岡 修一 講師

始めに今年度新たに支部長に就任された小黒支部長より歓迎の挨拶があり、続いて来賓を代表し、栃木県産業振興センターの柳理事長から栃木県における産業集積、産業技術の動向・将来展望そして栃木県支部への期待等に関する祝辞をいただいた。

挨拶の後、阿久津栃木県中小企業団体中央会事務局長の音頭で乾杯し、親睦の宴に移った。

今回は、例年より参加者が多かったため、テーブル席と座敷席に別れた変則会場となったが、和やかに親睦を深めるとともに、時間の経つのも忘れ熱心な情報の交換も行われていた。

宴もたけなわの頃、新合格者の皆さんに自己紹介をしていただいた。今回は、新技術士4名（建設、農業、化学、原子力部門各1名）と新たに技術士を目指す技術士補の方3名の方々に参加をいただいた。

皆さん現役で活躍されており、それぞれの技術経歴が披露され、技術士のライセンスを今後活かすための抱負、又、支部における技術交流への期待が述べられた。

当支部は、自分のような現役リタイア組など、やや構成年齢が高いきらいがあるが、今回加入いただいた新合格者のような新たな若い力によって、栃木県支部の活動が活性化し、より発展していくことを期待するところである。

平成 27 年度新合格者歓迎会・懇親会報告

支部幹事 黒川 昌司

平成 27 年度新合格者歓迎会・懇親会は、6月6日夕刻、ホテル丸治において、年次大会、講演会、会員報告会の終了後、ホテルの別会場に移り、来賓4名（産業振興センター、中小企業団体中央会、宇都宮商工会議所）、新合格者7名（技術士4名、技術士補3名）、協賛団体5名、支部会員32名、総勢48名の参加を得て、盛大に開催された。



新合格者の皆さん



来賓挨拶

馬頭中学校跡地を利用した

バイオマス発電所見学会

支部幹事 久芳 良則

林地残材や製材過程で出るバイオマスをエネルギー源としての発電と製材工場の組み合わせでグリーンパワー（グリーン電力・グリーン熱）として付加価値・環境価値を併せ持つプラント

です。熱は農業・漁業施設で有効利用を行っている。発電能力2500kW

開催日：平成27年4月17日（金）
13:30～15:00

場所：株式会社トーセン那珂川工場
（栃木県那珂川町大山田下郷 3568-74）

http://www.tohsen.net/jigyo_biom.html#nakanow

参加者：20名

見学場所は、旧馬頭東中学校があった場所を借りて、校舎を有効利用するとともに、校庭に製材工場を設置し、木材乾燥用バイオマスボイラー（オーストリア製）、バイオマス発電所、マンゴー温室、ウナギ養殖設備（校舎1F）を併設し、発電電力(2500kW)は売電し、熱のリサイクルによる有効利用を考えた施設である。経済性を考え木材は周辺50km以内から集めており、また住民から山に残っている廃材（間伐材他）を「木の駅プロジェクト」発足させて集め「地域振興券森の恵み」（商品券）を発行して町で使用できるユニークな取り組みが行われている。

発電能力は2500kWと最近のバイオマス発電所の実績と比較して比較的小規模であるが、この規模の施設が経済的に最適であるとの話であった。また、20km程度離れたところにチップボイラーを中心とした大規模な農業施設を計画中とのことであった。

考察：今回は多くの参加者があり先端的なバイオマスの取り組みを見学できたことは貴重な経験であった。我々が取り組んでいる市貝プロジェクトに対しても大いに参考になった。



バイオ発電プラント



マンゴー栽培

市貝プロジェクト「サシバをたずねて」

支部幹事 久芳 良則

期日：平成27年5月9日（土）

10:00～13:00

参加者：菅井俊郎、小黒幸市、市川恭治、川上寛見、樋口 弘、本田大士、久芳良則

講師：長野大輔（サシバの里協議会代表）

曇り空の土曜日サシバの里いちかいに集合した家族も含めて総勢11名は期待と不安を抱きつつ講師長野氏の案内でサシバ探索に出発しました。生育密度が高い谷津田3箇所を訪れました。

田植えを終えたばかりの田んぼの畦道を歩き自然観察をしながらサシバに合える機会が来ることを胸躍らせていました。谷津田1箇所目では、残念ながら巡り合えませんでした。2箇所目で樹木の上をひらひらと舞い木の上にとどまるサシバを見ることが出来ました。さらに3箇所目では、長野氏が大型望遠鏡で松の木に羽を休めている若いサシバを確保し、我々ほとんどが初めてサシバの凛々しい姿を身近に目にする事が出来ました。感動的なHappyな気分でした。

昼には我々が拠点を置く旧小貝中央小の校庭で昼食をとり、講師長野氏への御礼や感想を語り合い今回の見学会を無事終えることが出来ました。13時に解散した後、芝ざくら公園を楽しみ帰途につきました。

今回の企画提案をしていただいた市川氏に御礼申し上げます。

次頁に参加した皆様の感想を記載します。

樋口 弘氏（県支部会員）

(1)案内者の長野氏とは初対面でしたが、市貝町在住のフリーランサーとして環境問題に取り組みながら、地元の発展に役立とうと努力されている点、本支部が市貝プロジェクトを立ち上げて地方創生を目指そうとする活動と波長が合っていると思われ、今後協力し合う相手として大切にすべき人物の一人に巡り合ったと実感しました。「グリーンツーリズム」活動を考えている由（将来はさらに「エコツーリズム」か?）、こちらもそちらの方向にベクトルを合わせて考えを押し進めるべきかと思えます。

サシバは4月に見た時は高い空をトビの如くゆっくりと旋回しながら移動していましたが、5月9日に見た時は低山の標高より低い空間を主に飛び回っていました。おそらく5月は南から渡来した後の自分の居場所が定まった時であり、これ以降はずっと低空飛行をして採餌することが主体になると思われます。かつては5月になれば「ピックイー」としばしば鳴き声が聞かれたのですが、どうも最近はどういうわけかあまり鳴かなくなったようです。



サシバ観察の様子

サシバについて一番の心配点は、自分のことしか考えない写真撮影マニアが多いことだとわかりました。できる限り接近して良い写真を撮ろうとすると、サシバの繁殖行動を妨害することになりやすいため、近頃は人間がサシバに接近するだけでサシバは極度に警戒するようになっています。だから繁殖行動に直接関係する雌雄成鳥（生後約3年以上）が見られる場所をできるだけ避けて、昨年生まれの若鳥が活動するエリアを主体に案内してもらったようです。

猛禽の密猟については、昭和50年代前半に那須塩原市の千本松牧場に広がる広大な松林でのオオタカの密猟防止のため多数のボランティアが交替しながら昼夜兼行で監視活動を行った

歴史があり、現在は県の条例のおかげでオオタカの密猟が防止されていることを踏まえ、サシバの密猟防止について県に働き掛ける予定であることを長野氏から聞き、一応安心しました。

しかし、サシバの密猟防止は栃木県だけの問題ではないので、国の法律でも全国規模で密猟に対して歯止めをかける必要があります。つまり、環境省のレッドリストはそれ自体直接的法的拘束力がないため、違反者に対する罰則を含む法律で明確に猛禽の保護を担保する必要があるという意味で、例えば現行の「種の保存法」（正式名は「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」）の改正の必要（この法律はオオタカが対象になっていますがサシバは対象になっていません）を感じており、そのことを長野氏に伝えました。

(2)シバザクラ公園では、斜面全体が花で埋め尽くされた全盛状態の感がありましたが、今回は花の面積は半分以下でした。ここのシバザクラの一番の見ごろは4月だとわかりました。

今回の収穫は花畑の中に5人ぐらいの作業者を見かけたことです。この人達は花畑に潜む雑草を手で抜き取る作業をしていました。ここで手を焼くのは地下茎で勢力を横に広げようとするタイプのスギナだということでした。

里山と谷津田の広がる風景を堪能することができました。また期待していたサシバに会えたことは感無量でした。このような自然を残しながら地域の活性化に市貝プロジェクトがどのようなお手伝いができるかアイデアを出しながら活動できることを楽しみにしています。

孫二人を連れ家族5人で参加しましたが、今までこのようなところに連れてくる機会がなかったためか、孫たちは畦道でカエル、蝶や昆虫を追っかけまわして大騒ぎしていました。多少皆様にご迷惑をおかけした面があったかと思いますが、参加してとてもよかったと感じています。



参加者一同



市貝町のアマカエル



施設説明の様子

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 (FREA) 見学報告

支部幹事 久芳 良則

1. 期日：平成 27 年 7 月 1 日 (水)
13:00~15:00
2. 場所：福島県郡山市待台 2-2-9
3. 出席者：FREA:所長代理 坂口欣也氏
県支部：菅井俊郎氏、萩原良章氏、
平間昇氏、久芳良則

FREA は東日本大震災からの復興を基本方針として平成 26 年 4 月に開設されています。坂口欣也先生と懇親できる機会があったこと、市貝プロジェクト推進のための情報収集目的から、今回の FREA 見学が実現した。

FREA の 6 つの研究テーマ

- ① 次世代シリコン太陽電池：0.1mm 薄型ウェハによる製造コストを下げた太陽電池モジュール製造 (23 社コンソーシアム)
- ② 地中熱ポテンシャル評価：福島一東北地区マッピング中、地域に適したシステム目指す
- ③ 地熱の適正利用：センサ、モニタリング、ソフトウェア
- ④ 高効率風車：LIDAR で風を正確に読み取るシステム
- ⑤ 水素キャリア製造：高密度貯蔵メチルシクロヘキサン製造から熱電供給まで
- ⑥ 再生可能エネルギー：地域に適したエネルギーマネジメントと周辺技術

日大客員教授としての活動：西会津湖南町の旧赤津小を利用して、運動場に 20-30m の地中熱利用設備を設置した (NEDO プロジェクト)。夏の冷房・冬の暖房の実証。また、周辺の民有林を利用したボイラーやスターリングエンジンによるモデル作りをしている。また、我々の市貝プロジェクトにも関心を持っていただき、市貝町を一度見たいし、意見交換も可能とのことであった。

この研究所がもっている実証フィールドにおいて、地中熱システム、多種類の太陽光パネル、風力発電、他パネル・モデルなどを見学した。



施設見学の様子



地熱発電の模型



地熱発電システムの実証フィールド

フェスタmy 宇都宮 2015

「わくわくどきどきサイエンス」

支部幹事 西谷 元則

開催日：5月17日 10:00～15:00

会場：宇都宮市中央市民活動センター

入場者数：ミニカー 午前15名、午後20名
総数70名（保護者含む）

電池、コイルモータ 午前36名、午後32名 計68名（保護者含む）

県支部出席者：小黑氏、久芳氏、川上氏、長山氏、松原氏、大岩氏、西谷

宇都宮市民の記念事業「フェスタmy 宇都宮2015」が5月17日に宇都宮市中央市民活動センター開催され、県支部として3回目の教室となりました。

今回は、昨年同様に「かんたん電池ミニカー（マグネシウム電池ミニカー）教室」、「10ターンコイルモータ工作教室」、「かんたん電池体験教室」の3つの体験教室を行い、100名を越える参加者となり大盛況でした。

かんたん電池体験教室

5センチ程度角の垂鉛板と銅板の間に塩を浸み込ませた紙（キッチンペーパー）を挟み電池を作ります。この電池を直列に4個つなぎ、テスターで電圧を計ってみます。1個0.6-0.8V程度でした。LEDライト（赤、青）が点灯できました。とても分かりやすい電池教室でした。川上先生有難うございました。

電池の種類の勉強もしました



かんたん電池体験教室の様子

10ターンコイルモータ教室

単一電池と磁石を使ってモーターの製作実験です。数年継続している教室です。毎年川上先生により改良が進み、今年は子供たちの出来がよく、指導する側もやりがいがありました。



10ターンコイルモータ教室の様子

かんたん電池ミニカー

（マグネシウム電池ミニカー）教室

10分程度「地球温暖化」、「再生可能エネルギー」、「自動車の燃料」について勉強して、その後マグネシウム電池ミニカーの作成を行いました。3年生以上を対象にしていたのですが、低学年の参加者もあり、ものづくりの楽しみを体験してもらいました。完成したミニカーを牛乳パックで作ったコースで走行させ、子供たちで競争させていました。

参加した子供の中でこの体験が思い出となり、将来科学技術者を目指し「技術士」取得に挑戦してもらいたいと節に願います。来年は「違った体験学習を考えて行きたいと思います。」



かんたん電池ミニカー教室

栃木県支部会報広場

＝まちびあ利用者協議会 全体会議 報告＝ (広報委員会 西谷 元則)

開催日：H27.6.13 (土) 13時～15時
 主催：宇都宮市役所 14階 大会議室
 参加：35団体
 内容：H26 利用者協議会及びまちびあ事業報告
 H27 利用者協議会及びまちびあ事業計画
 H27 役員団体選出
 参加団体プレゼン紹介 (4団体)
 参加団体交流会

今回は、日本技術士会栃木県支部の広報活動として、「参加団体プレゼン紹介」で4団体中の1番手にプレゼンしました。

持ち時間7分と短い時間でありましたが、「国家資格に技術士ってあるのだ！」など交流会で参加団体の方に訪ねられ、活動内容などをPRできた。どの団体も年齢層が高く、私たちも若手育成を真剣に考えていくべきと感じた。



＝コラム＝ (広報委員会 大岩正通)

専修寺 御影堂 (せんじゅじ みえいどう)

所在地：真岡市高田 1482
 文化財：国重要文化財

今回は、真岡市 (旧二宮町) の「専修寺 御影堂」を紹介します。

親鸞聖人の等身の御影を中央須弥壇上に安置し、左右に真佛・顕智両上人の木像をはじめ、歴代上人像をおまつりする堂です。

昭和60年からの大修理によって、もとの茅葺屋根の形に復元されました。

またそのとき、寛保3年 (1743) の墨書が発見されて、そのころの建築とわかりました。



＝新体制＝ (総務委員会 黒須重富)

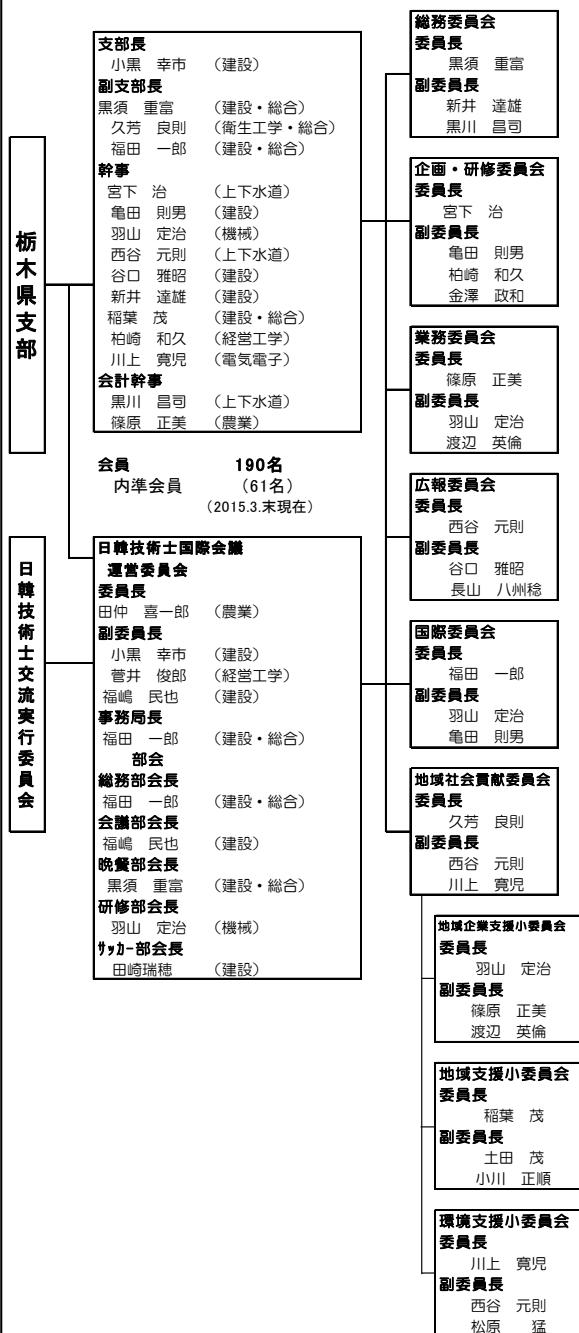
今年から二ケ年に渡り新組織で活動していきます。

新支部長の下、さらに充実した活動となるよう会員は以下の委員会に所属をお願いします。

希望者は総務委員長黒須までご連絡ください。

E-mail: kurosug@guitar.ocn.ne.jp

公益社団法人日本技術士会 栃木県支部 組織



平成 27 年度 栃木県支部 行事予定表

月・日	曜日	総務委員会	企画・研修委員会	広報委員会	国際委員会	業務地域 企業合同 及び 振興セNW推進	地域社会貢献 委員会	市貝町 プロジェクト	日韓国際会議 運営委員会	CPD 対象
随時	—	月締め清算		ホームページ運営	毎月中旬例会開催				毎月例会開催 毎月本部開催: 韓交流委員会	—
4月9日	日	第1回 役員会								
4月16日	木							市貝町情報交換会		
4月17日	金						パワマ発電 見学会			○
4月25日	土							第7回会合		
5月9日	土							サシハ見学会		○
5月14日	木					5協議会総会				
5月16日	土						フエツmy宇都宮 準備会			
5月17日	日						フエツmy宇都宮			
5月24日	日	第2回 役員会						第8回会合		
6月3日	水							商工会(婦人部) 情報交換会		
6月6日	土	全体会合 第3回役員会	合格者祝賀会							
6月7日	土			第1回 広報委員会						
6月13日	土			まちびあ 利用者協議会			第1回 小委員会	第9回会合		
6月下旬	—					企業見学 ・勉強会				○
7月12日	日	第4回 役員会						第2回 小委員会		
7月19～20日		技術士二次試験								
7月25日	土							第10回会合		
7月30日	水			会報7号 原稿締切						
8月2日	日					第1回 業務委員会				
8月10日	日			会報7号 編集完了						
8月25日	日			会報7号 発刊準備						
9月5日			見学会							
9月11日	金					宇大交流会				
9月12日	土	第5回 役員会					第3回 小委員会			
9月13日	日			エンジョイ カガク			エンジョイ カガク			
9月27日	日						よささ ウオーク			
10月10日	土	第6回 役員会					宮っこ フェスタ	第11回会合		
10月17日			科学技術講演会							
10月18日	日					まちびあ祭り				
10月22日～24日	—				日韓技術士 国際会議 (韓国春川市)				日韓技術士 国際会議 (韓国春川市)	○
11月上旬	—					企業見学 ・勉強会				○
11月5日	木				浙江省訪日団 秋頃日時未定		環境見学会 (見込み)			○
11月8日	日					第2回 業務委員会				
11月14日	土	第7回 役員会		第2回 広報委員会			第4回 小委員会			
11月28日	土						人づくりフォーラ ム			
12月5～6日	土日						ECO77&77 とちぎ2014			○
12月12日	土	第8回役員会	講演会 ・忘年会							
12月25日	水			会報8号 原稿締切						
1月15日	木			会報8号 編集完了						
1月25日	日			会報8号 発刊準備						
2月13日	土	第9回 役員会					第5回 小委員会			
3月12日	土	第10回 役員会						第12回会合		
3月下旬	—					企業見学 ・勉強会				○

2015年 小学生を対象にした 理科教室ボランティアスタッフ募集



みらいの自動車教室



コイルモーター教室



ジオラマ作成

小学生の理科離れが問題となっています。

そこで、将来の科学技術者の育成のために、2012年より我々「技術士」が県支部の社会貢献活動を行なっております！

ご自身が昔、教わったことを思い出しつつご指導いただけます！

是非、ご参加をお待ちしております。

行事予定

★9月13日(日) 8時～16時

エンジョイカガク2015

(会場：帝京大学宇都宮キャンパス)

9月12日準備及び

当日のプラモデルミニカー作成補助

★10月10日(日) 8時～16時

宮っこフェスタ

(会場：宇都宮城址公園)

当日のコイルモーター作成指導

★11月28日(土) 8時～16時

人づくりフォーラム

(会場：宇都宮工業高校)

11月27日準備及び

当日のプラモデルミニカー作成補助

★12月5～6(土～日) 8時～16時

ECO テック&ライフ2015

(会場：宇都宮マロニエプラザ)

市貝町プロジェクトのジオラマ作成及び

当日来場者説明スタッフ

希望者は以下のアドレスに、参加イベント名と連絡先を送信ください。

また、希望を検討している方も以下のアドレスに送信ください。

環境支援小委員会 担当：西谷 元則

E-mail:m-nishitani@aep-mizukankyou.jp

協賛団体の紹介

株式会社 イケヤフォーミュラ
 代表者名：代表取締役 池谷 信二
 所在地：〒322-0046
 栃木県鹿沼市縦山町427-1
 U R L：<http://www.ikeya-f.co.jp>
 E-mail：ikeya-f@ikeya-f.co.jp
 T E L：0289-64-5652
 創立年月日：昭和43年7月23日
 従業員：25人
 業務内容：



モータースポーツで蓄積した技術を活用して、ドライバーへ走る楽しさを提供すると共に燃費向上へ貢献するトランスミッションの開発、生産を行っており、東京モーターショー2013では、将来的な公道走行を目的としたスポーツカーのコンセプトモデルIF-02RDSにそれらを搭載し出展しました。イメージから何度も繰り返す試作段階を社内で行えるため、スピーディーに開発ができる強みがあり、世界中に通用する製品において知的財産所有権の申請や取得を進め、世界に羽ばたける製品づくりに努力致しております。常に新しい領域へ常に新しい開発をモットーに、情熱を持ち、様々な試行錯誤を繰り返しながら高水準、高精度を目標に未来へとつながる可能性を切り開き、確かな技術を求めて製品づくりに努めたいと思っております。

当社は、自動車開発部、駐車場事業部、製造部に分かれており、自動車関連部品の開発及び、防衛省特殊車両、競技車両パーツ、駐車場ロック装置など車に携わる物、また建築物その他、非鉄金属全般における開発設計・製造・組立・検査などの工程を各部門別の生産ラインにて行っております。自動車開発部では走行安定性向上に貢献する駆動部品や足回り用の部品を開発・設計・製造・販売を行っています。駐車場事業部においては、駐車場ロック装置をはじめ、バイクロック、駐車場機材などすべて自社製造、国産品にこだわり、高品質な製品づくり、人にやさしく利用しやすい駐車場システムを心掛けております。また、ビル等の免震構造を支える油圧ダンパー等も製造しております。



協賛団体の紹介（五十音順）

当支部に協賛戴いている団体です。

- ★ 株式会社 イケヤフォーミュラ
- 宇都宮測量 株式会社 栃木県技術士会報18号紹介
- 株式会社 エネルギー応用技術研究所
- 晃洋設計測量 株式会社 栃木県技術士会報12号紹介
- 株式会社 三和電機
- 株式会社 真和技研
- 株式会社 藤原設計
- 株式会社 ダイミック
- 株式会社 中央土木工学研究所 栃木県支部会報 創刊号紹介
- 東亜サーベイ 株式会社 栃木県技術士会報14号紹介
- 東洋測量設計 株式会社 栃木県支部会報 3号紹介
- 株式会社 トキタ・ac 栃木県支部会報 5号紹介
- 株式会社 栃木用地補償コンサルタント 栃木県技術士会報15号紹介
- 有限会社 那須化成
- 日研測量 株式会社 栃木県支部会報 4号紹介
- 日昌測量設計 株式会社 栃木県技術士会報16号紹介
- 株式会社 ピーシーコンサルタント
- 株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ 栃木県支部会報 6号紹介
- 富士コンサルタンツ 株式会社
- 芙蓉地質 株式会社
- 株式会社 水環境プランニング 栃木県技術士会報17号紹介
- やまこ産業 株式会社 栃木県支部会報 2号紹介
- 人創工房 Y&Kコンサルティング

上記団体を順次ご紹介させていただきます。「★」は当号の紹介です。

編集後記

栃木県支部は、7月より小黒新支部長を迎え新体制で活動していきます。

これまで以上の活動は当然のこと会員の増大、若手会員や賛団体の勧誘し活動の幅を広げて行ければと考えています。

来年は日韓技術士国際会議が栃木県で開催されるため、会員が一丸となって成功させたいと思っております。

一方、技術士として科学技術者の育成、継続、継承するために、県支部活動は社会貢献活動を行なっています。

会員の方々には、さらなるご協力と積極的な参加をお願い致します。

広報委員会は本部ホームページを活用し、会員の方々に情報を伝達していきます。定期的に関覧してください。

http://www.engineer.or.jp/c_shibu/tochigi/

公益社団法人日本技術士会 栃木県支部 会報 第7号 2015年8月発行

発行者 栃木県支部（支部長 小黒 幸市）

広報委員会：委員長 西谷元則

副委員長 谷口雅昭、長山八洲稔

委員 大島晃二、大岩正通

事務局 〒321-0954

宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内

Tel:028-666-5816/Fax: 028-666-5148